

《どうでもいい話、その 534》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！たまには、マジメな話をします。

地元の小学校で、特別支援学級（なかよし学級）の授業補助ボランティアを6年間ほど行っていますが、今年度からプラス中学校（すぎのこ学級）もやり始めました。今学期は、コロナによりずっと休校で、やっとこの6月からボランティアを再開しました。中学校のすぎのこ学級には、小学校のなかよし学級の時の児童が半数近くいます。その中で小学校低学年からいる女の子のNちゃんが今春入学し、すぎのこ学級でまた一緒になりました。Nちゃんは、当校区内にある児童養護施設に幼児のころからいます。知能は普通ですが精神的に不安定なところがあり児童養護施設長からの要望で、特別支援学級に配属されました。施設長の話しによると、幼児の頃は明るい性格だったのですが、小学校に行き、他の子たちと比べるようになると「自分は親から捨てられた」と感じ、心を閉じてしまい、それからは笑顔が消え、無口になったそうです。なかよし学級の際は専任の教師がいたので、あまり話す機会はなかったのですが、すぎのこ学級では同じ教室にいるので、こちらから積極的に話すと、少し心を開いてくれるようになりました。Nちゃんは、図工が好きで、センスもあります。これからの人生を、自分が描いた絵のように明るく前向きに歩んでほしいものです。ただNちゃんが今まで「お父さん、お母さん」の言葉を、呼びかけとして使ったことがないと思うと、不憫です。

岩波より

* Nちゃんの図工作品を添付ファイルにてお送りします。

Nちゃんの図工作品



ぬり絵（色彩センスがいい）



ビーズ工作（ビーズを並べアイロンで熱し固めたもの）